



SOMPO インスティテュート・プラス

安心・安全・健康のテーマパーク

マイナポイント・マイナンバーカードに関するネットアンケート調査 ～マイナ保険証を中心に利用メリットの訴求が課題～

2022年11月15日

SOMPO インスティテュート・プラス株式会社

企画・公共政策グループ

アンケート調査の結果概要 ①

◇ SOMPOインスティテュート・プラスは、2022年9月に「マイナポイント・マイナンバーカードに関するネットアンケート調査」を実施した(株式会社インテージリサーチに委託)。ここでは、本調査結果の概要を紹介する。なお、本調査を踏まえた政策的なインプリケーションについては、Insight Plus『健康保険証廃止の議論から見える課題～当社独自アンケート調査に基づく考察～』で検討を加えているので、合わせてご参照いただきたい。

【マイナンバーカード】

- ◇ マイナンバーカードのメリット・効果を実感している人は約2割にとどまっている。また、マイナンバーカードの機能を一つでも認知している人が9割いる一方で、マイナンバーカードの取得理由として、個々の機能・メリットを挙げる割合は10%～25%程度と低く、「ポイントがもらえるから」が最大の理由となっている。マイナンバーカード取得推進という政策目的の観点ではマイナポイントは機能したと言えるが、そもそもの魅力度(できること)を増やす必要がある。
- ◇ マイナンバーカード未取得者のうち、今後も取得しないとする人が挙げる理由として、「個人情報適切に扱われるか心配」が約6割に上る。政府としては、カード番号が流出しただけでは個人情報につながらないことや、マイナンバーカードに紐づく情報をどのように管理しているかを丁寧に説明することが、今後のカード取得向上策になるだろう。

(続く)

アンケート調査の結果概要 ②

【マイナ保険証】

- ◇ 「マイナ保険証」も、取得理由の8割は「ポイントがもらえる」であり、マイナ保険証の取得推進という点でマイナポイントは機能したと言える。一方、マイナ保険証の個々の機能を認知している人はいずれも3割未満で、申し込まない理由も「メリットが分からない」が最も多い(約30%)。政府はマイナ保険証の意義をより丁寧に説明する必要があるだろう。
- ◇ マイナ保険証を使ったことがない理由として、「利用できる医療機関・薬局がわからない」「通っている医療機関や薬局で使えない」がそれぞれ約20%を占めた。どこの医療機関・薬局でも使える状況を早く作り出す必要があるだろう。

【公金受取口座】

- ◇ 「公金受取口座」についても、取得理由で最も多いのは「マイナポイントがもらえるから」(7割強)。また、「給付金の申請手続きを簡単にしたい」という政策目的に適った理由にも35%の回答があった。

【将来的な課題】

- ◇ マイナンバーカードに期待する機能として、運転免許証や予防接種記録などに3割以上の回答があった。若年層では、スマートフォンへの搭載も4割近い支持を集めた。国民の利便性を高めるためにも、そうした機能拡充を急ぐ必要がある。
- ◇ あくまでも仮定の話として、マイナンバーを通じて個人資産の情報収集が行われることについて、社会的な必要性を尋ねたところ、必要性を認める回答は2割にとどまった。とくにマイナンバーカードの取得予定がない人の抵抗感が強い。

マイナポイント事業の効果

◇マイナンバーカードを取得した理由は、「マイナポイントがもらえるキャンペーンをやっていたから」が過半であった。

特にいわゆる「第2弾」(6月30日以降)で申し込んだ人に限ると、その割合は約80%に達する。

◇「マイナンバーカードを普及させる」という政策目的に照らすと、マイナポイント事業は一定の効果があったと評価できる。

◇一方で、ポイント以外の機能面での魅力度を引き上げることが、今後の課題。

マイナンバーカードを取得した理由 ※主な回答を抜粋

【全体】

(%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90



【マイナポイント第2弾での取得者】

(%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90

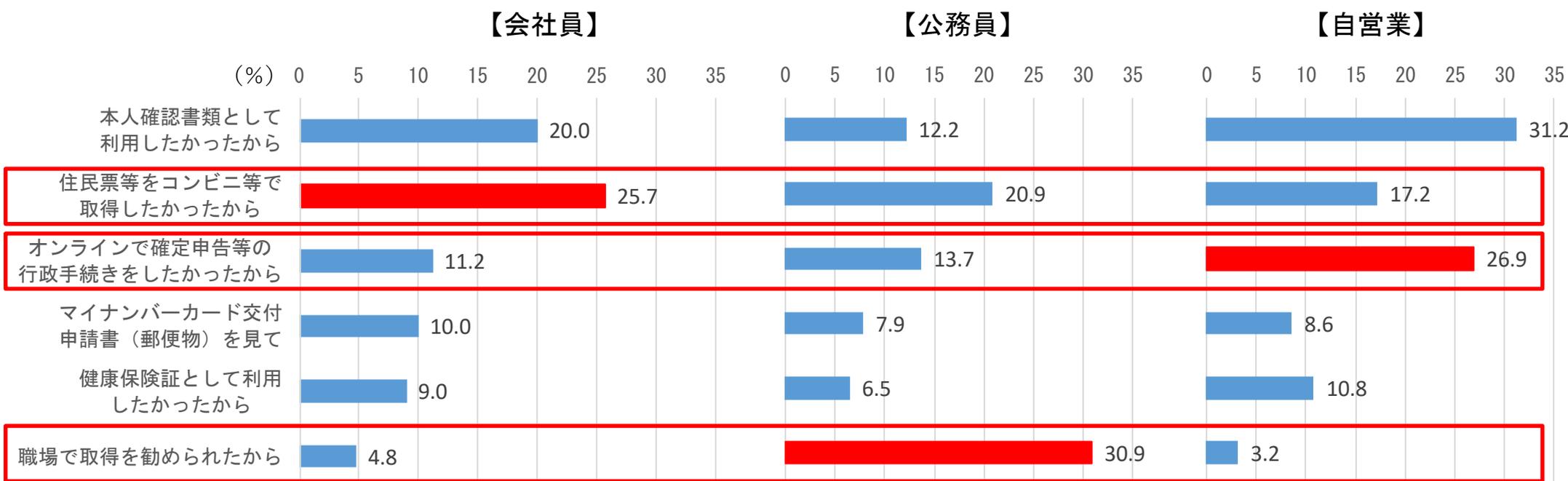


マイナンバーカード取得理由(マイナポイント事業以外)

- ◇「マイナポイントがもらえるキャンペーンをやっていたから」以外の理由については、職業等によって違いがあった。
- ◇会社員は「住民票などをコンビニで取得したかったから」、自営業は「確定申告など、オンラインで行政の手続きをしたかったから」が他の職業と比べて割合が高かった。国民ニーズに沿って、カードが使えるシーンが増えると、取得が進む可能性がある。
- ◇公務員は、「職場で勧められたから」の割合が多いことが特徴的。

マイナンバーカードを取得した理由

※「マイナポイントがもらえる」以外の主な理由

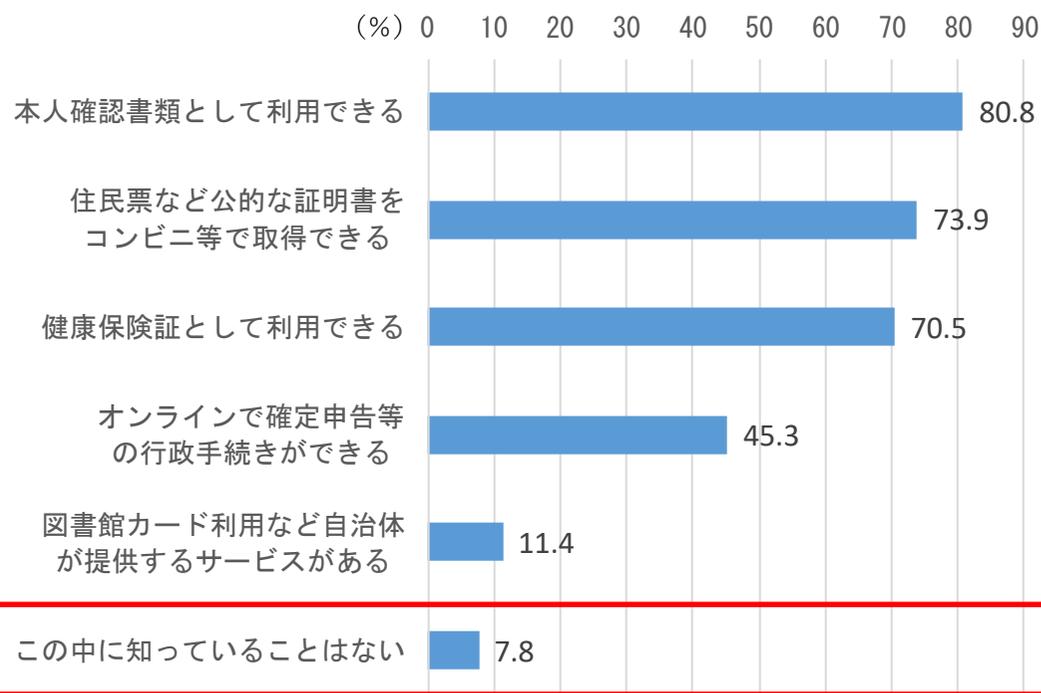


マイナンバーカードの機能の認知度

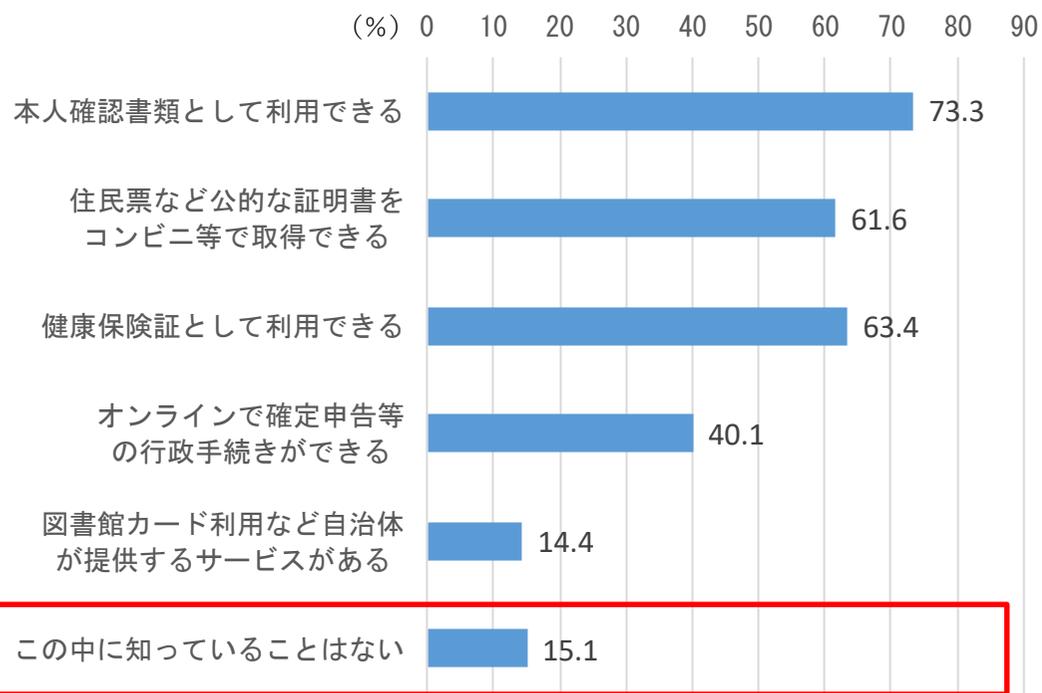
- ◇マイナンバーカードの機能について、全く知らない人は1割未満であり、カード機能の認知は相応に浸透している。
- ◇ただし、今後もカードを取得しないとする人においては、相対的にカード機能の認知度が低い。こうした層で認知度が向上すればカード取得率引き上げにつながる可能性も。

マイナンバーカードの機能で知っていること

【全体】



【マイナンバーカードを今後も取得しない人】

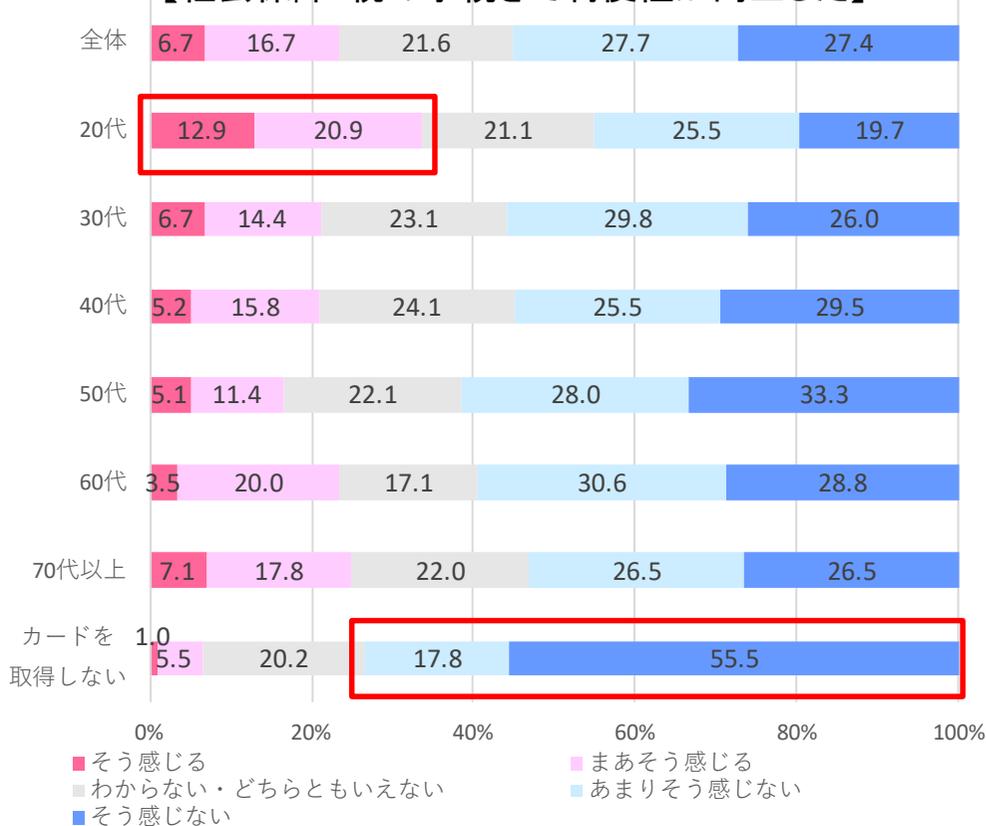


マイナンバー制度・マイナンバーカードによる効果の実感

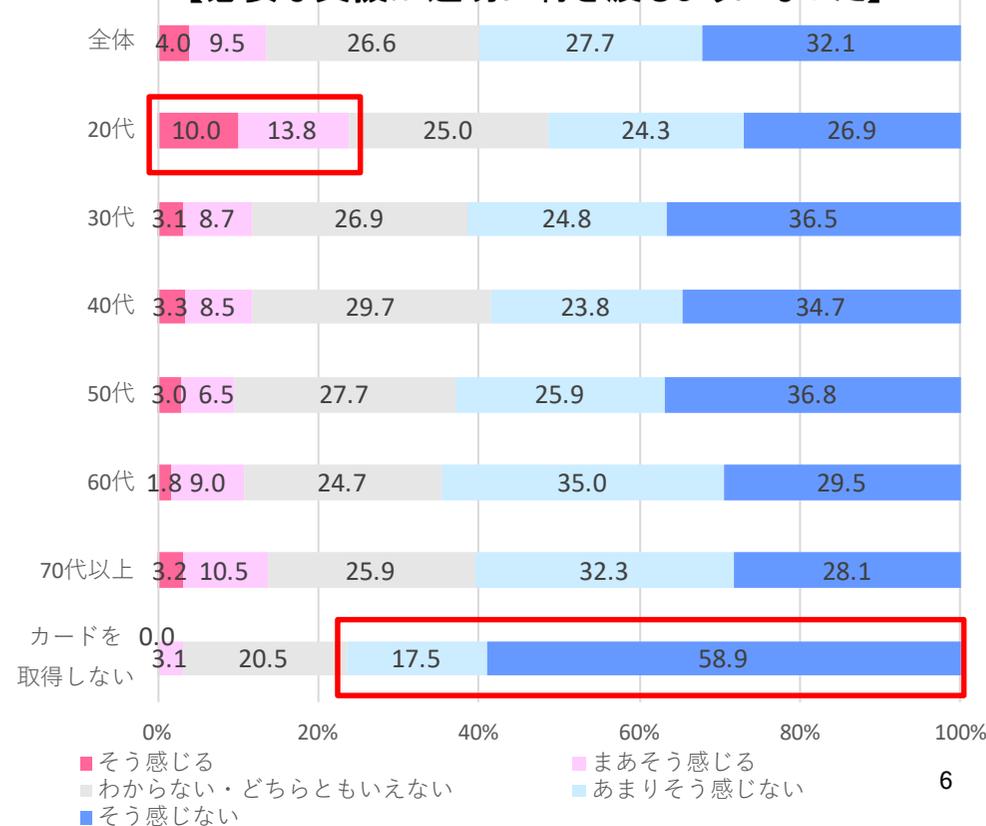
- ◇ マイナンバー制度やマイナンバーカードの効果(利便性の向上・支援の行き渡り)を実感している人々は、2割程度に留まる。マイナンバーカードの魅力度(できること)を増やす必要。
- ◇ 年代別では、20代にポジティブな回答が多い。また、マイナンバーカードを今後も取得しないとする人(回答者全体の約1割)は、効果に対して否定的に捉える傾向が強い。

マイナンバー制度やマイナンバーカードによる効果の認識

【社会保障・税の手続きで利便性が向上した】



【必要な支援が適切に行き渡るようになった】

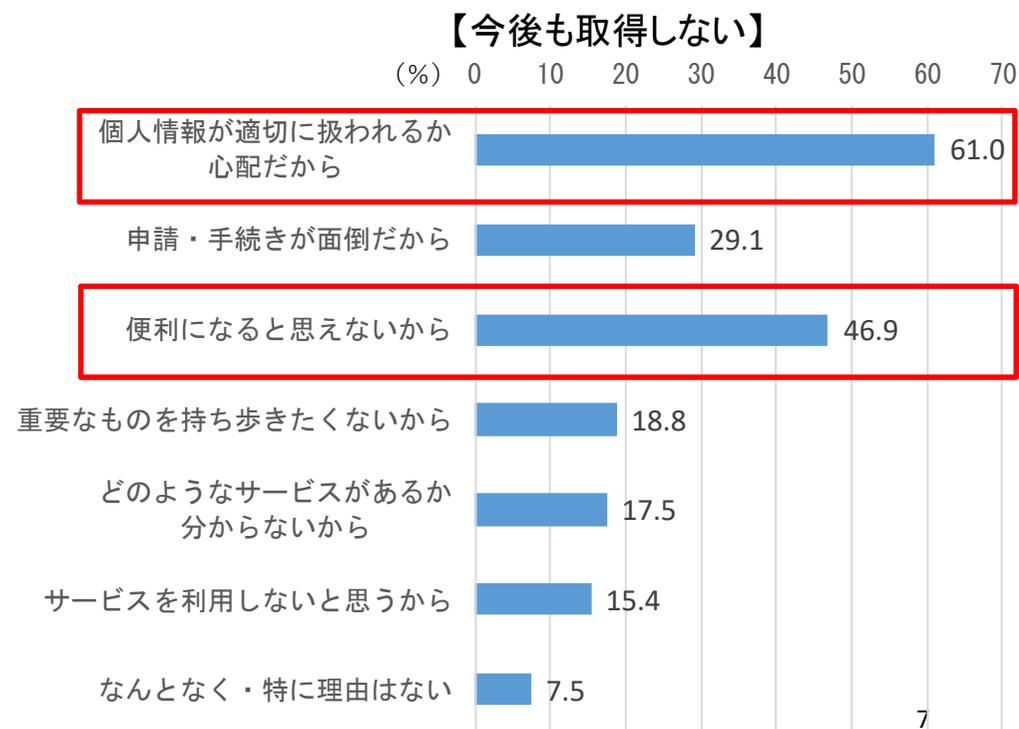
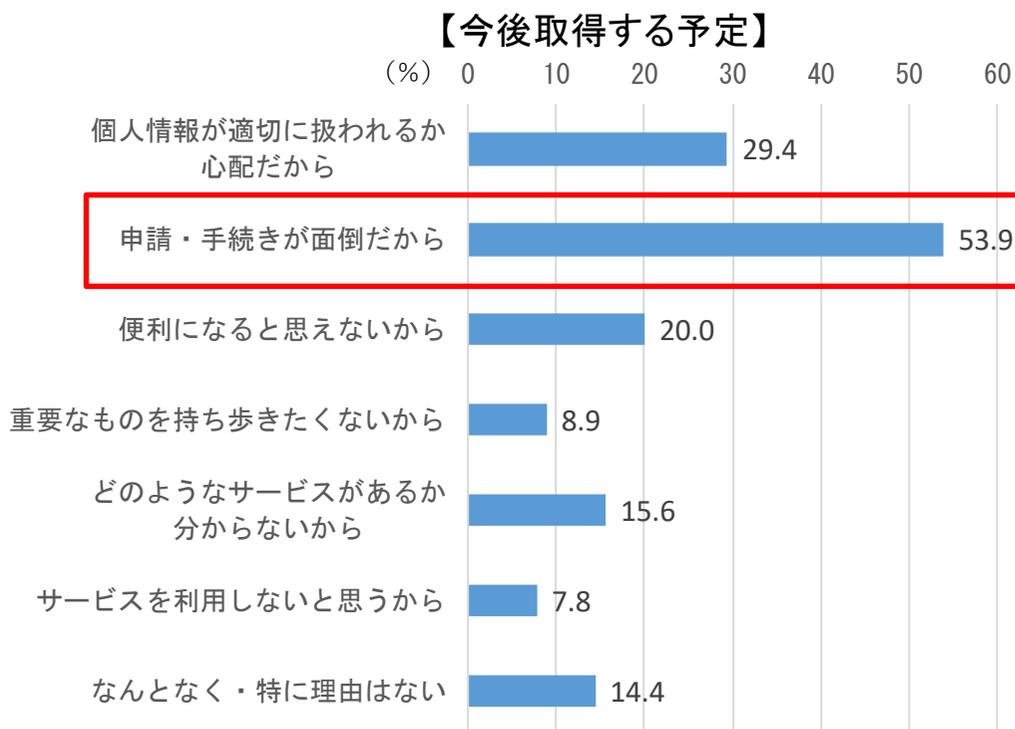


マイナンバーカードの未取得の理由

- ◇ マイナンバーカード未取得の人のうち、今後取得する予定がある人は24%。こうした人が今までカードを取得しなかった理由としては、「申請・手続きが面倒」が最も多い。
- ◇ 一方で、カード未取得者のうち、今後も取得しないとする人は38%を占める(残り38%は態度保留)。取得しない理由は「個人情報適切に扱われるか心配」や「便利になると思えない」の割合が高い。こうした人のカード取得をいかに促すかが課題。政府は、個人情報の扱いについて分かりやすく説明するとともに、カードの魅力を一層高める必要。

マイナンバーカードを取得していない理由

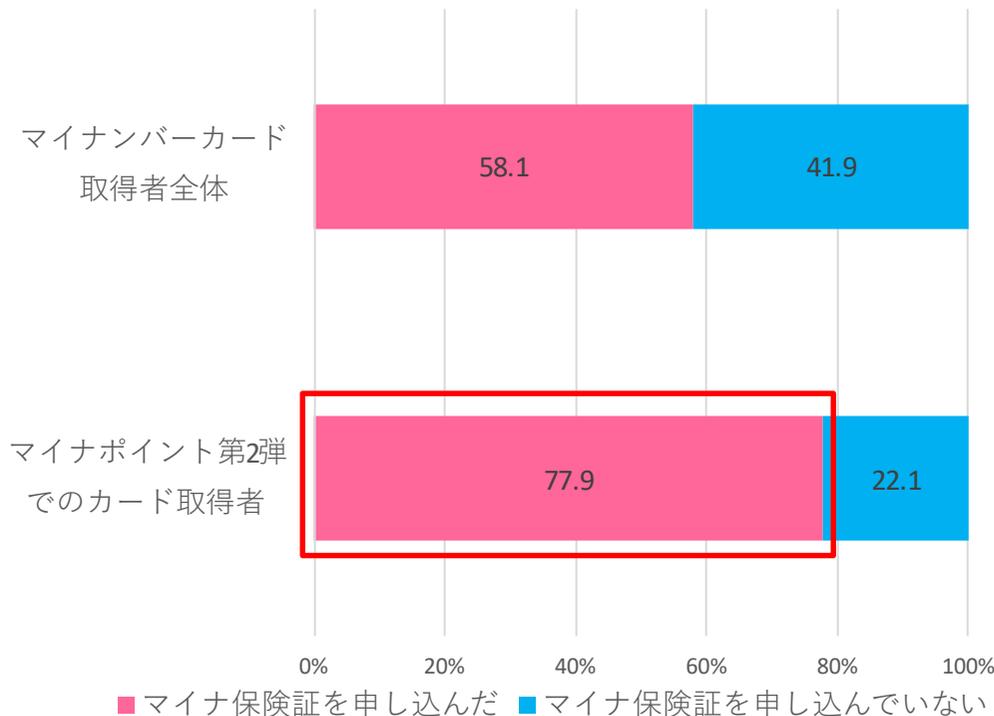
※主な回答を抜粋



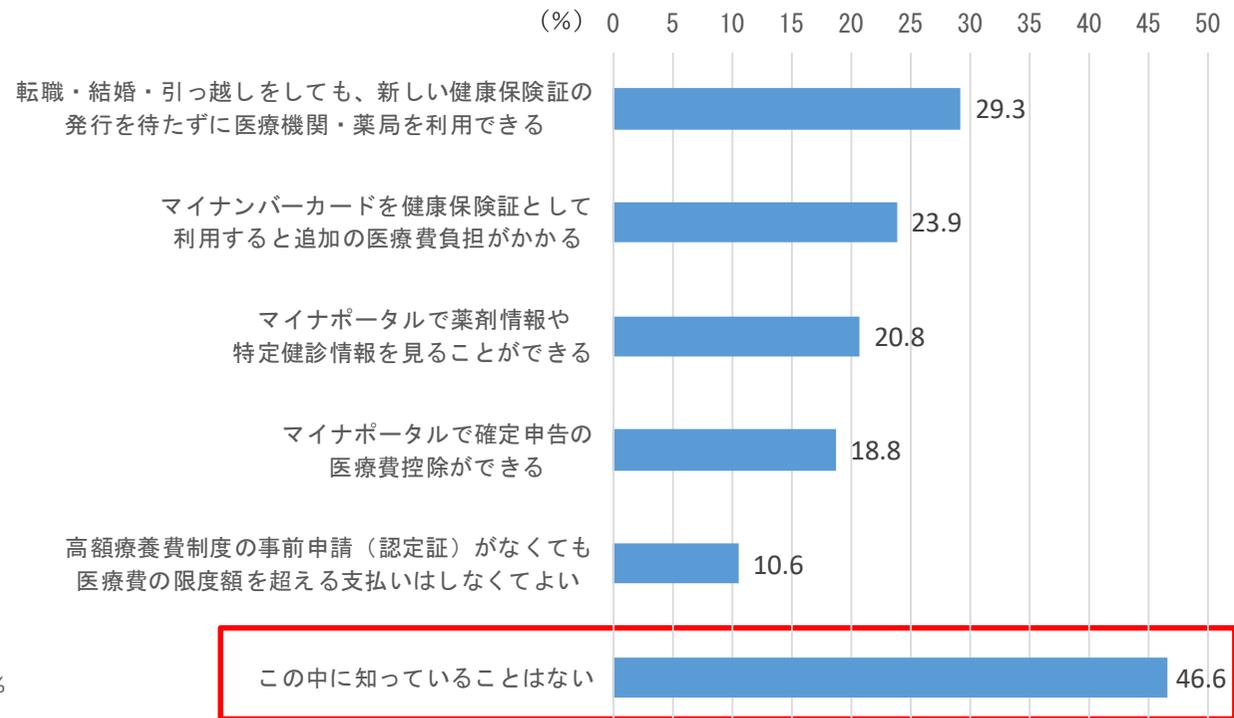
マイナ保険証の申し込み状況

- ◇ マイナンバーカード取得者全体のうちマイナ保険証を申し込んだ人は6割。とくにマイナポイント第2弾(6月30日以降)でカードを取得した人の8割がマイナ保険証を申し込んでおり、一定のキャンペーン効果があったと言える。
- ◇ 一方で、マイナ保険証のメリットを全く知らない人が半分近くに達する。今後はマイナ保険証の利用促進に向けてメリットを周知していくことが大事。

マイナ保険証の申し込み状況



マイナ保険証の機能で知っていること



※対象は、マイナンバーカード取得者全体

マイナ保険証を申し込んだ理由／申し込まない理由

- ◇ マイナ保険証を申し込んだ理由は、「マイナポイントがもらえるキャンペーンをやっていたから」が8割強と圧倒的に多い。具体的なサービスを利用したいという回答者は少なく、機能面が積極的に評価されたわけではない。
- ◇ 一方で、マイナ保険証を申し込まない理由としては、「メリットが分からない」や「申し込みが面倒」「利用できる医療機関や薬局が少ない」などが多い。マイナ保険証の浸透には、魅力的なメリットの提示や取り扱い機関の増加が重要。

マイナ保険証を申し込んだ理由 ※主な回答を抜粋

(%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80 90

マイナポイントがもらえる
キャンペーンをやっていたから 81.8

持っていても損やデメリットは
ないと思ったから 24.4

転職・結婚・引っ越しをしても、
新しい健康保険証の発行を待たずに
医療機関・薬局を利用できるから 11.0

マイナポータルで確定申告の
医療費控除ができるから 10.4

マイナポータルで薬剤情報
や特定健診情報を見る
ことができるから 9.4

高額療養費制度の事前申請が
なくても医療費の限度額を
超える支払いはしなくてよいから 7.5

マイナ保険証を申し込まない理由

(%) 0 5 10 15 20 25 30 35

メリットが分からないから 32.0

申し込みが面倒だから 23.5

利用できる医療機関や薬局が少ないから 22.7

個人情報適切に扱われるか心配だから 22.0

申込方法や利用方法がわからないから 16.4

通っている医療機関や薬局で使えないから 15.8

健康保険証を利用することが多くないから 11.6

マイナンバーカードを健康保険証として
利用すると追加の医療費負担がかかるから 8.9

今の健康保険証が使えなくなると
思ったから 5.6

なんとなく・特に理由はない 17.5

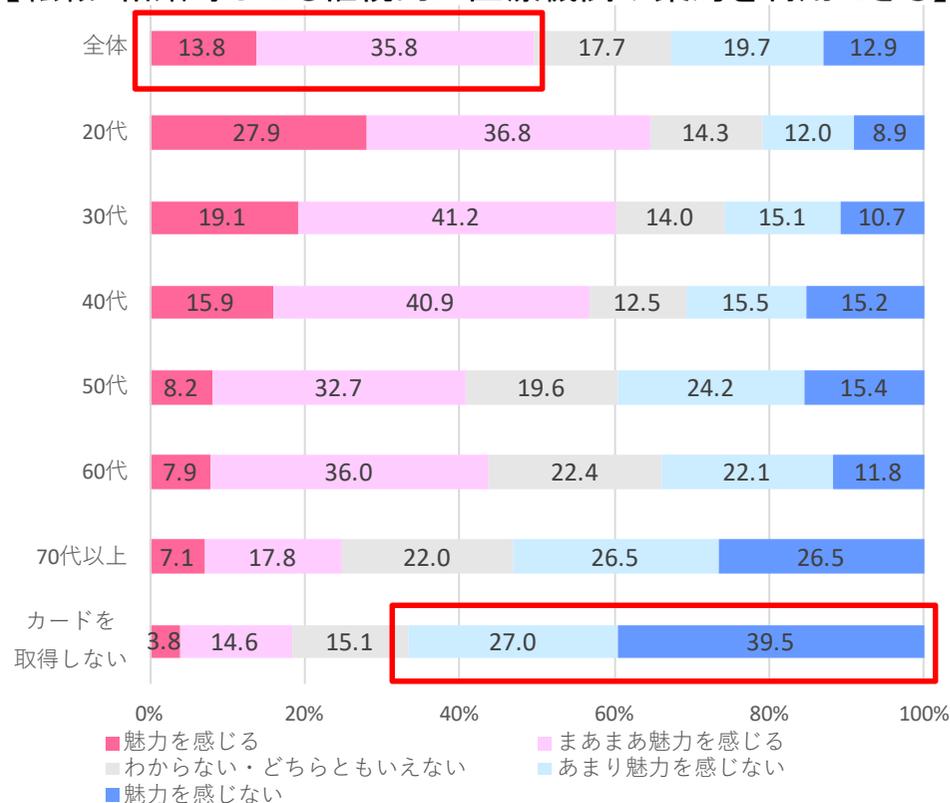
マイナ保険証のメリットに対する認識

◇ マイナ保険証のメリットに魅力を感じるかどうか尋ねたところ、5割が肯定的・3割が否定的・2割がどちらでもないという分布だった。年代が若くなるにつれて肯定的な回答が多くなる。

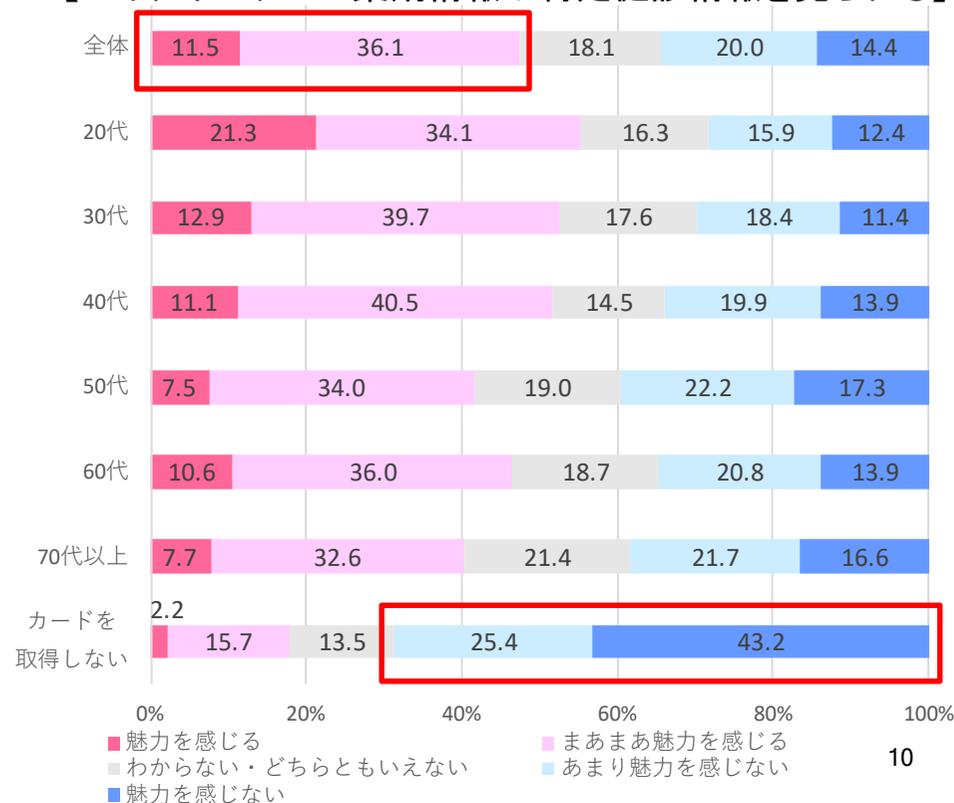
◇ また、マイナンバーカードを今後も取得しない人は、マイナ保険証のメリットに対して否定的な感覚が強い。こうした層にマイナ保険証を浸透させるには、機能の説明や認知度の向上に努めるだけでは難しいかもしれない。

マイナ保険証のメリットに対する認識

【転職・結婚等しても継続的に医療機関や薬局を利用できる】



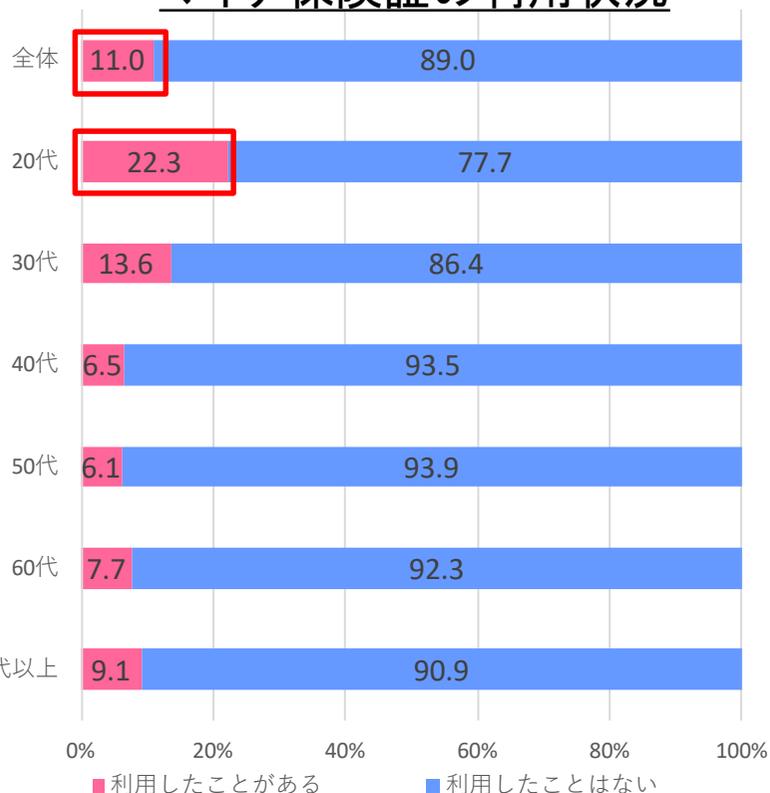
【マイナポータルで薬剤情報や特定健診情報を見られる】



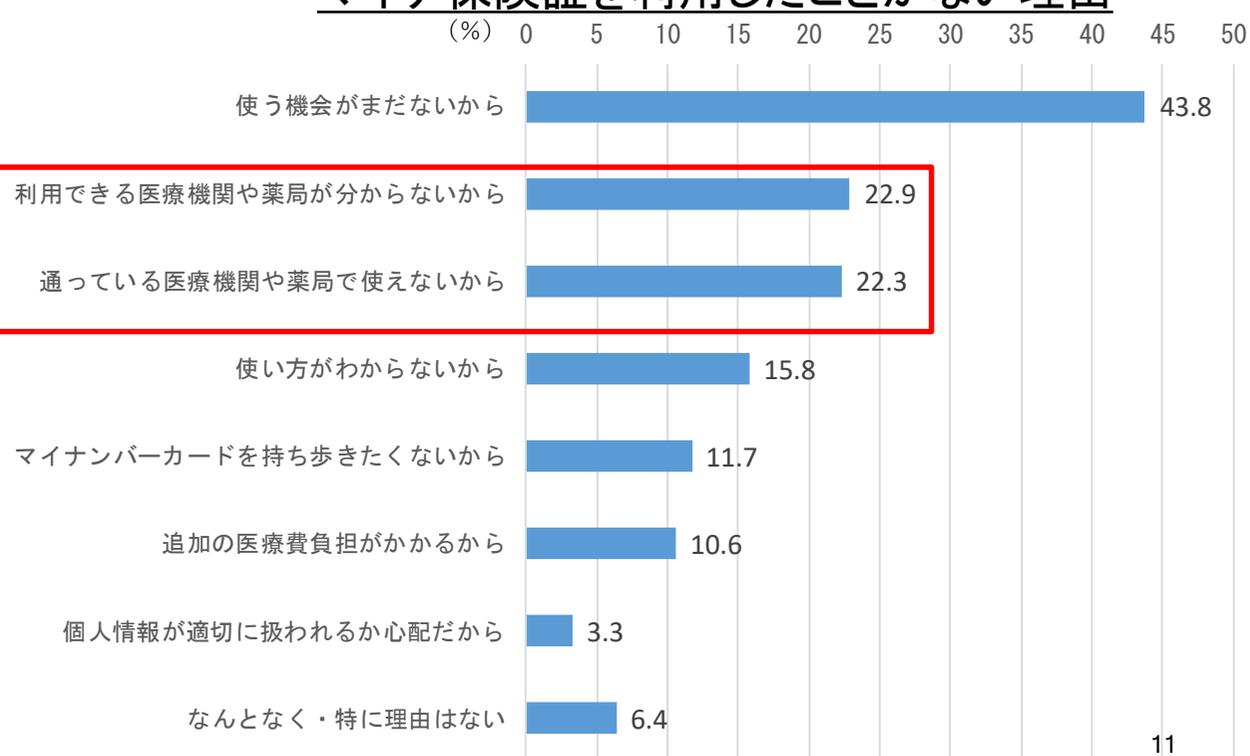
マイナ保険証の利用状況

- ◇マイナ保険証を使ったことがある人は、持っている人の中でわずか1割。若い年代ほど使っている割合が高い。
- ◇マイナ保険証を使ったことがない理由として、「使う機会がない」の他には、「利用できる医療機関や薬局が分からない」「通っている医療機関や薬局で使えない」が多かった。どの医療機関等でも使える状況を早く作り出す必要がある。
- ◇一方、「マイナンバーカードを持ち歩きたくない」や「個人情報適切に扱われるか心配」といった理由は限定的であり、マイナ保険証に切り替えた層では心理的な抵抗感が小さいことがうかがえる。

マイナ保険証の利用状況



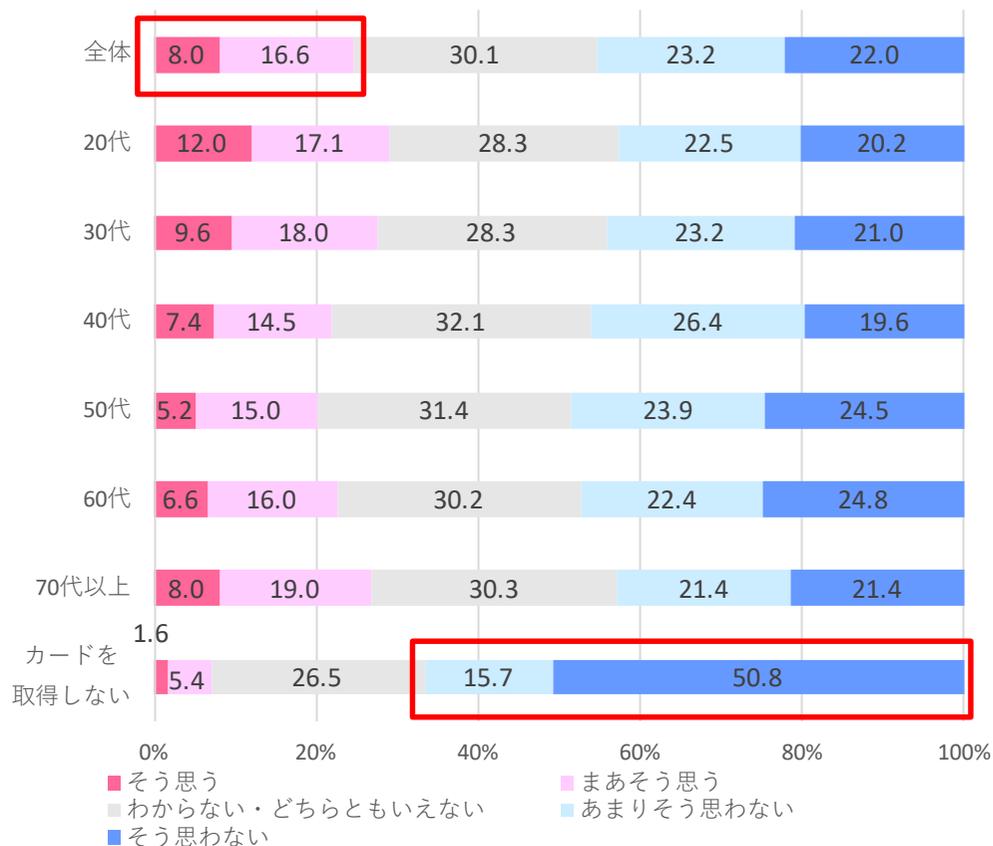
マイナ保険証を利用したことがない理由



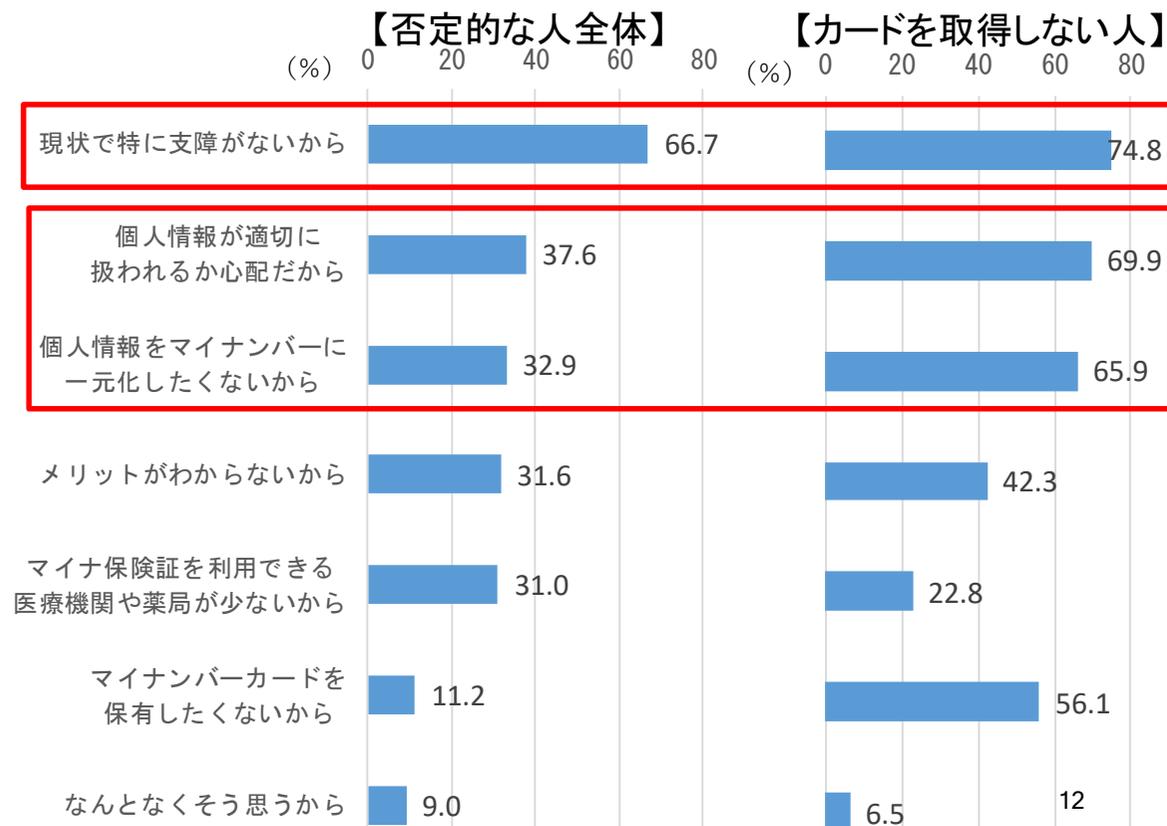
健康保険証の廃止に対する賛否

- ◇ 現在の紙やプラスチックの健康保険証を廃止することについては、賛成が25%にとどまり、否定派の方が多い。
年代別には、若年ほど肯定派が多い傾向。また、マイナンバーカードの取得予定がない人では否定派がより多い。
- ◇ 否定的な理由としては、「現状に支障がない」が3分の2に上る。また、マイナンバーカードを今後も取得しない人(回答者全体の約1割)では、個人情報保護への懸念などの理由も多く、政府に対する不信感の根強さがうかがえる。

健康保険証を廃止すべきか



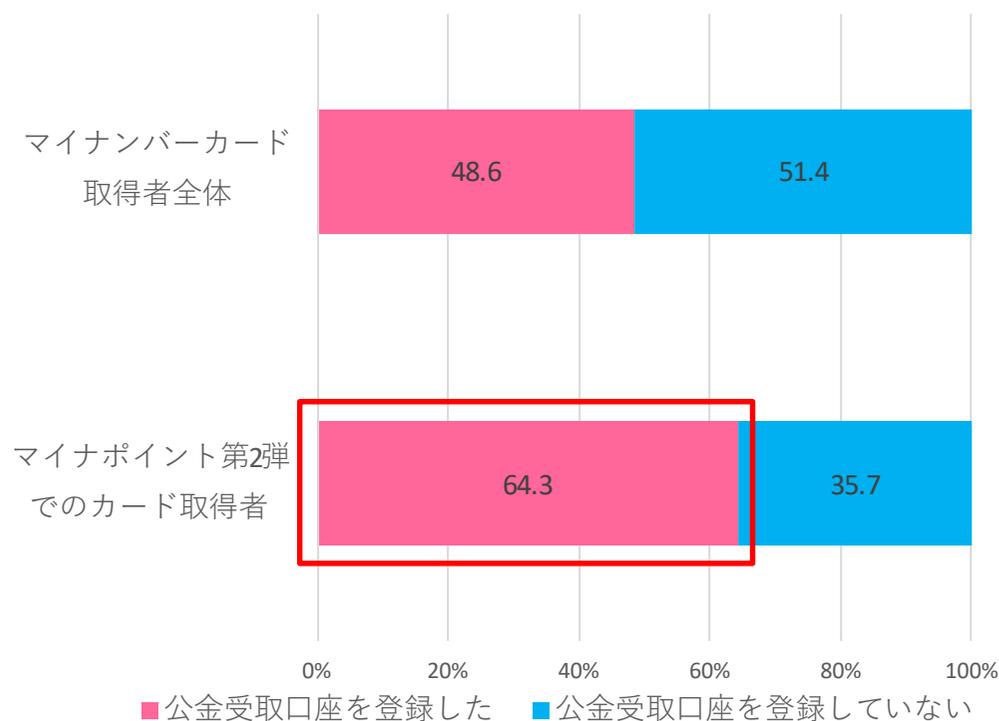
健康保険証の廃止に否定的な理由



公金受取口座の登録状況

◇ マイナンバーカード取得者全体のうち公金受取口座を登録した人は約半数。マイナポイント第2弾でカードを取得した人のなかでは64%が登録しており、一定のキャンペーン効果があったと言える。

公金受取口座の登録状況



公金受取口座を登録した理由／登録しない理由

- ◇ 公金受取口座を登録した理由は、「マイナポイントがもらえるキャンペーンをやっていたから」が7割強と圧倒的に多い。また、「給付金の申請手続きを簡単にしたい」という政策目的に適った理由にも35%の回答があった。
- ◇ 一方で、登録しない理由としては、「口座情報をむやみに登録したくない」「個人情報が適切に扱われるか心配」が多く、事の性格を反映して個人情報に関する懸念が強かった。
- ◇ また、「資産や所得が把握される」と誤認している回答者も一定割合存在するため、制度の正確なアナウンスが必要。

公金受取口座を登録した理由 ※主な回答を抜粋

(%) 0 10 20 30 40 50 60 70 80

マイナポイントがもらえる
キャンペーンをやっていたから 73.7

給付金の申請手続きを
簡単にしたいから 35.6

健康保険証利用の申込等のついでに 18.8

持っていても損やデメリットは
ないと思ったから 14.7

新型コロナ対策の特別定額給付金の
際に手続きが面倒だったから 12.4

年金、児童手当、所得税還付金等の
受給手続きにも利用したかったから 11.5

公金受取口座を登録しない理由

(%) 0 5 10 15 20 25 30 35

口座情報をむやみに登録したくないから 31.0

メリットが分からないから 30.8

個人情報が適切に扱われるか心配だから 27.1

登録手続きが面倒だから 21.5

所得や資産が把握されるの
ではないかと思うから 15.2

登録方法がわからないから 14.0

利用することがないと思うから 10.2

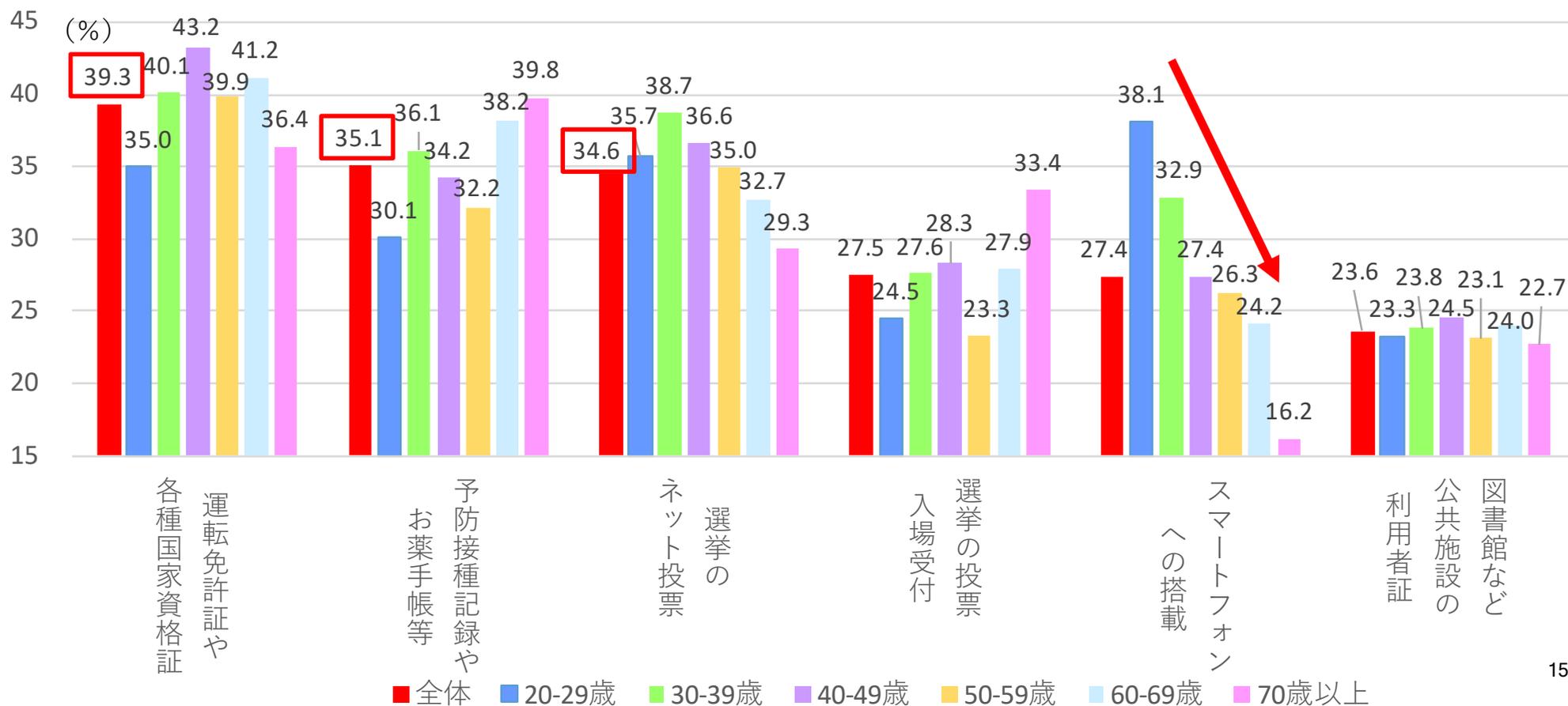
なんとなく・特に理由はない 18.3

あったら良いと思うマイナンバーカードの機能

◇ 今後、マイナンバーカードの活用が広がることを期待する領域としては、「運転免許証」や「予防接種記録・お薬手帳」「選挙のネット投票」などに3割以上の回答があった。

◇ また、「スマートフォンへの搭載」は、20代で4割近くの回答を集め、年齢層が高くなるにつれて期待が低下している。

あったら良いと思うマイナンバーカードの機能

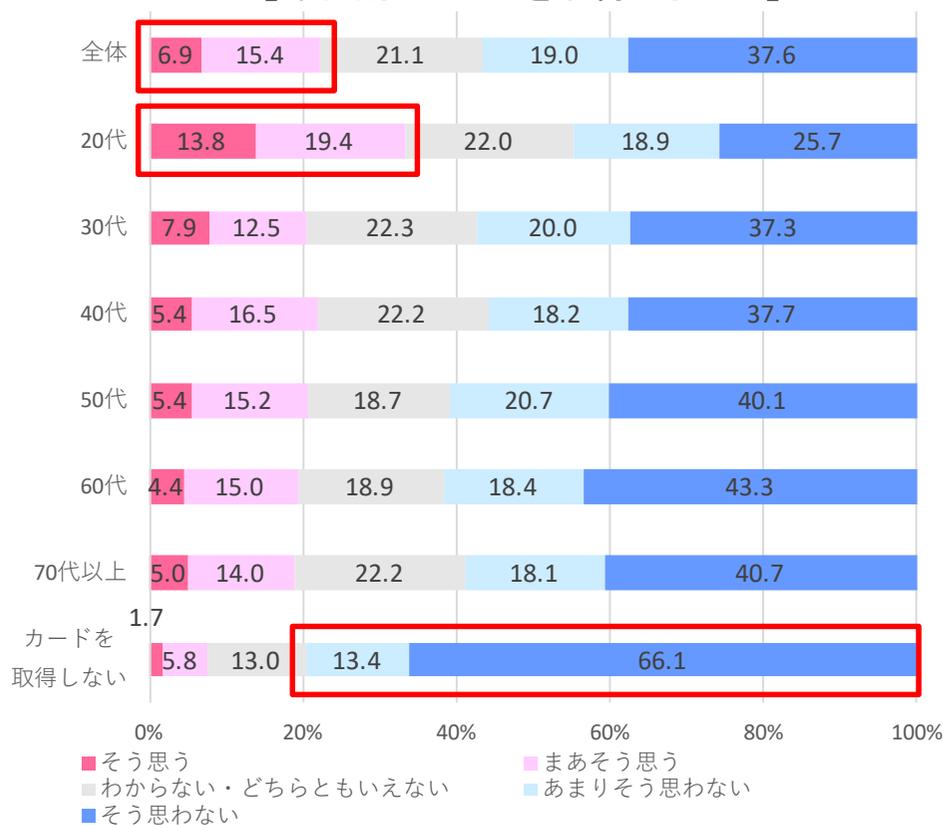


個人資産の情報収集に対する意識

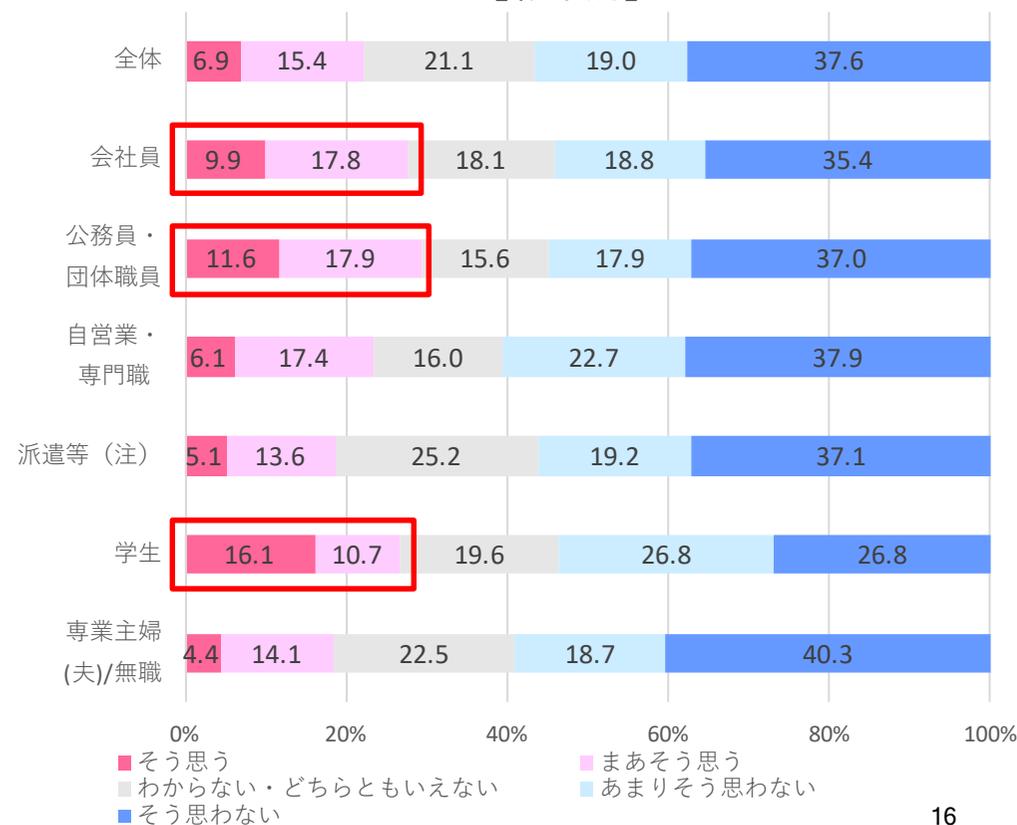
- ◇ (仮の話と断った上で)マイナンバーを通じて個人資産の情報収集が行われることについて、社会的な必要性を尋ねたところ、必要性を認める回答は2割にとどまった。とくにマイナンバーカードの取得予定がない人の抵抗感が強い。
- ◇ こうした中、年代別には20代で、職業別には会社員、公務員、学生で社会的意義を見出している割合が相対的に高い。

マイナンバーを通じた個人資産の収集は社会的に必要なことだと思うか

【年代別／カードを取得しない人】



【職業別】



(注) 派遣等は、派遣、契約社員、パート、アルバイト。

(補足)マイナンバーカードの取得率は70%を超える

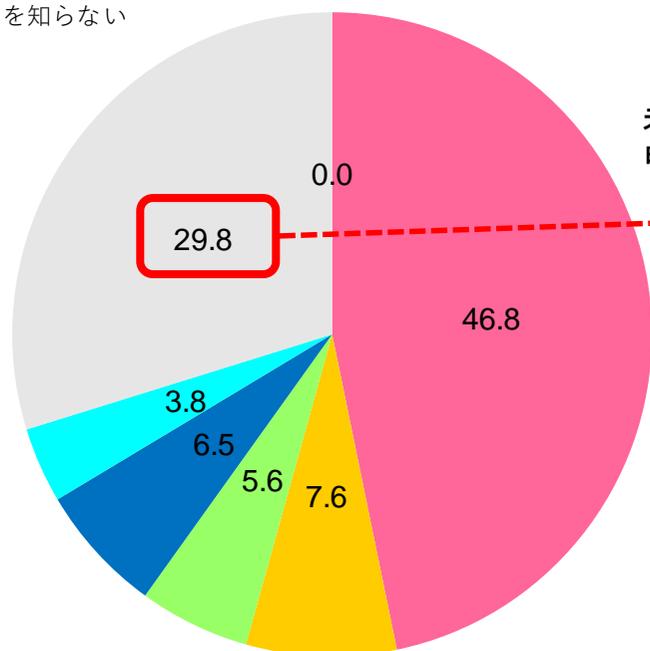
- ◇ マイナンバーカードの取得率は70.2%。今後申請する予定の7.1%を加えると、実質的な取得率は77.3%。
- ◇ マイナポイント第2弾が本格的に実施された6月30日以降に取得・申請予定の人は16.5% (5.6%+3.8%+7.1%)。

〔マイナンバーカードの取得状況〕

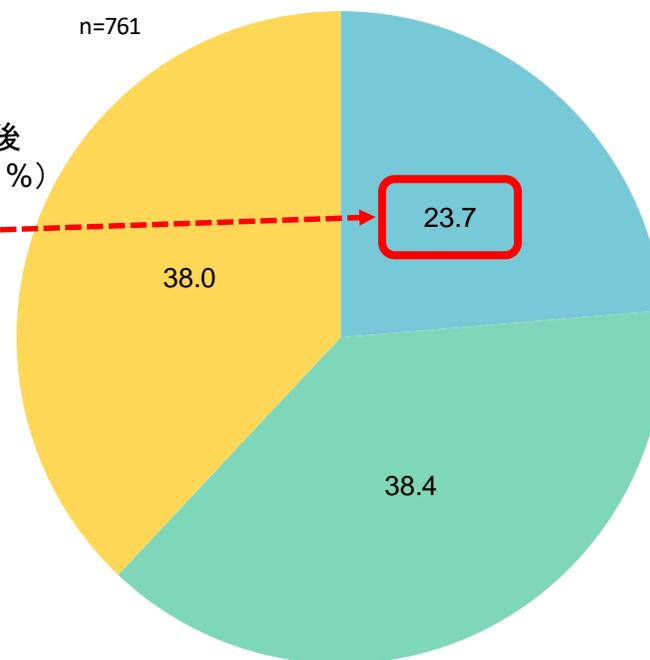
〔マイナンバーカード未申請者の取得予定〕

- 取得した (2021年12月以前に申請) ※マイナポイント第1弾(2020年9月～2021年12月)およびそれ以前
- 取得した (2022年1月～6月29日に申請) ※マイナポイント第2弾 (マイナンバーカード取得のみポイント付与)
- 取得した (2022年6月30日以降に申請) ※マイナ保険証の申し込み・公金受取口座の登録もポイント付与対象に
- 取得した (申請した時期は覚えていない)
- まだ手元に届いていないが申請はした
- マイナンバーカードのことは知っているが、申請はしていない
- マイナンバーカードのことを知らない

- 取得 (申請) する予定がある
- 取得 (申請) する予定はない
- わからない・答えたくない



未申請者のうち23.7%が今後申請予定(回答者全体の7.1%)



(補足)アンケート調査の設計

調査目的 : 2022年6月30日から開始されたマイナポイントキャンペーンによるマイナ保険証申込・公金受取口座登録への効果を測るとともに、これらの施策に対する国民意識の“立ち位置”を把握すること。

調査手法 : インターネット調査（スクリーニング調査＋本調査）

調査対象者 : 全国の20～70代男女。マイナンバーカードの認知者を本調査の対象とする。

割付

| | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | 70-79歳 | 合計 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 男性 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1,200 |
| 女性 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1,200 |
| 合計 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 400 | 2,400 |

本調査回答者

| | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | 70-79歳 | 合計 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 男性 | 206 | 212 | 213 | 215 | 221 | 220 | 1,287 |
| 女性 | 206 | 204 | 211 | 214 | 213 | 217 | 1,265 |
| 合計 | 412 | 416 | 424 | 429 | 434 | 437 | 2,552 |

調査時期 : 2022年9月22日(金)～2022年9月26日(月)

調査実施会社 : 株式会社インテージリサーチ



SOMPO インスティテュート・プラス

安心・安全・健康のテーマパーク